

南方熊楠コレクションで番所山の自然を学ぼう

番所山を愛する会

和歌山県

「番所山を愛する会」について

「番所山を愛する会」の事務局は、和歌山県西牟婁郡白浜町番所山の「公益財団法人南方熊楠記念館」にある。会の目的は、番所山の自然及び周辺地域の自然を愛し、それを活用する事業を行って白浜町臨海地域の活性化をはかることである。この目的に賛同し入会したメンバーによって構成されている。主な活動は、南方熊楠記念館のある番所山の森の手入れや海岸清掃活動で、これらの活動は平成 26 年より継続的に行ってきた。また、南方熊楠記念館が毎年行っている粘菌教室や各種イベントの指導や協力を続けている。2015 年と 2018 年に南方熊楠記念館が「公益財団法人国際花と緑の博覧会協会」と白浜町より助成を受けて番所山で行った森や磯での自然観察会や、和歌山県の令和元年度紀ノ国森づくり基金活用事業で行った森林ウオークなどのイベントでも参加者の指導をしたり、観察会の運営に協力したりしてきた。

1. 活動の目的

吉野熊野国立公園に含まれる番所山にある南方熊楠記念館は、2017 年にリニューアルオープンした。ここには、南方熊楠が採集した標本類の一部が保管されている。茶色と黒色の箆笥や 2 個の木箱などに収められていた貝類や昆虫や鉱物などの標本は、ほとんどが一般公開されていなかった。2018 年度に貝類コレクションの一部が展示され、西宮市貝類館の協力で、標本のリストが完成した。また、2019 年度の特別展で、和歌山県内のトンボ類全ての展示や、鉱物の展示も行った。番所山にはウバメガシ林やタブノキ林など照葉樹林の自然林があり、熱帯植物園であった名残で、亜熱帯の植物も生育し、トンネルや人工池もあり、磯も近く、多様な自然環境がある。この自然環境を活かして、番所山を愛する会では、南方熊楠記念館のイベントに協力して番所山で観察会を長年続けている。今回の特別展の資料をもとにして、一般の人にもわかりやすく楽しんでもらえるような冊子を作成し、番所山で自然を観察するときのガイドブックとして活用したいと考えた。

2. 今回の活動内容について

A 資料整理の実施（専門家を招いて標本のリストを作成する）

① トンボ

熊野自然保護連絡協議会会長南敏行氏が作成した和歌山県内のトンボ全ての種類の標本とリストを南方熊楠記念館の特別展「和歌山のトンボ展」で展示し、和歌山県内のトンボ全ての種類の写真や資料が入った冊子を作製した。

「和歌山のトンボ展」の様子



トンボ展入口



生態写真と標本の展示



個々にプラスチックケースに入った標本



和歌山のトンボ一覧表と赤とんぼの顔写真



台形ケースでの展示



ヤゴの標本展示



科毎の展示



参考にした本の展示

展示したトンボのリスト

和歌山県産トンボ一覧表(2018年2月5日作成)

科名	種名	学名	科名	種名	学名
1	オツネトンボ	<i>Sympetma paedisca</i> (Brauer)	54	ムカシヤンマ	<i>Tanypteryx pryeri</i> (Selys)
2	ホソオツネトンボ	<i>Indolestes peregrinus</i> (Rü)	55	オニヤンマ	<i>Anotagaster sieboldii</i> (Selys)
3	アオイトンボ	<i>Lestes sponsa</i> (Hansmann)	56	トラフトンボ	<i>Epitheca marginata</i> (Selys)
4	オオアオイトンボ	<i>Lestes temporalis</i> Selys	57	タカネトンボ	<i>Somatochlora uchidai</i> Foerster
5	コバネアオイトンボ	<i>Lestes japonicus</i> Selys	58	エゾトンボ	<i>Somatochlora viridiana</i> (Uhler)
6	ニホンカワトンボ	<i>Mnata costalis</i> Selys	59	ハネビロエゾトンボ	<i>Somatochlora clavata</i> Oguma
7	アサヒナカワトンボ	<i>Mnata pruinosa</i> Selys	60	オオヤマトンボ	<i>Epophthalma elegans</i> (Brauer)
8	アオハダトンボ	<i>Calopteryx japonica</i> Selys	61	キイロヤマトンボ	<i>Macromia datojoi</i> Okumura
9	ミヤマカワトンボ	<i>Calopteryx cornelia</i> Selys	62	コヤマトンボ	<i>Macromia amphigena amphigena</i> Selys
10	ハグロトンボ	<i>Calopteryx atrata</i> Selys	63	チョウトンボ	<i>Rhyothemis fuliginosa</i> Selys
11	モノサシトンボ	<i>Copera annulata</i> (Selys)	64	スナアカネ	<i>Sympetrum fuscicolumbei</i> (Selys)
12	キイトンボ	<i>Ceragrion melanurum</i> Selys	65	ナツアカネ	<i>Sympetrum darwinianum</i> (Selys)
13	ベニイトンボ	<i>Ceragrion nipponicum</i> Asahina	66	マダラナニワトンボ	<i>Sympetrum maculatum</i> Oguma
14	クロイトンボ	<i>Paracercion calanorum calanorum</i> (Rü)	67	ナニワトンボ	<i>Sympetrum gracile</i> Oguma
15	セスジイトンボ	<i>Paracercion hieroglyphicum</i> (Hnuer)	68	リスアカネ	<i>Sympetrum risti risti</i> Bartsch
16	オオイトンボ	<i>Paracercion sieboldii</i> (Selys)	69	ノシメトンボ	<i>Sympetrum infuscatum</i> (Selys)
17	ムスジイトンボ	<i>Paracercion melanotum</i> (Selys)	70	アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i> (Selys)
18	モートンイトンボ	<i>Paracercion melanotum</i> (Selys)	71	タイリクアキアカネ	<i>Sympetrum depressius culum</i> (Selys)
19	ホソミイトンボ	<i>Actagrion nigrum</i> (Selys)	72	タイリクアカネ	<i>Sympetrum striolatum imitoides</i>
20	アオモンイトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i> (Rambur)	73	コノシメトンボ	<i>Sympetrum baccha matutinum</i> Rü
21	アジアイトンボ	<i>Ischnura asiatica</i> Brauer	74	ヒメアカネ	<i>Sympetrum parvulum</i> (Bartsch)
22	ムカシトンボ	<i>Epiphlebia superstes</i> (Selys)	75	マユテアカネ	<i>Sympetrum eroticum eroticum</i> (Selys)
23	サラサヤンマ	<i>Sarasaeschna pryeri</i> (Martin)	76	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunkeli</i> (Selys)
24	コシボソヤンマ	<i>Boyeria maclochiani</i> (Selys)	77	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum palomonianum elatum</i> (Selys)
25	ミルンヤンマ	<i>Planaeschna nithei</i> (Selys)	78	ネキトンボ	<i>Sympetrum speciosum speciosum</i>
26	アオヤンマ	<i>Aeschnophlebia longitarsis</i> Selys	79	キトンボ	<i>Sympetrum croceolum</i> (Selys)
27	ネアカヨシヤンマ	<i>Aeschnophlebia antisoptera</i> Selys	80	オオキトンボ	<i>Sympetrum uniforme</i> (Selys)
28	カトリヤンマ	<i>Gynacantha japonica</i> Bartsch	81	ハネビロトンボ	<i>Tramea virginea</i> (Rambur)
29	マルタンヤンマ	<i>Anaetiaeschna martini</i> (Selys)	82	ヒメハネビロトンボ	<i>Tramea transmarina</i> (Brauer)
30	ヤブヤンマ	<i>Polycaanthogyna melanictera</i>	83	コシアキトンボ	<i>Pseudothemis zonata</i> (Burmeister)
31	オオルリボシヤンマ	<i>Aeshna nigrofava</i> Martin	84	コフキトンボ	<i>Parathemis zonata</i> (Burmeister)
32	ルリボシヤンマ	<i>Aeshna juncea</i> (Linnaeus)	85	アメイトンボ	<i>Thalysia allargo</i> (Fabricius)
33	ギンヤンマ	<i>Anax parthenope fulvus</i> Brauer	86	ハッチョウトンボ	<i>Nannophya pygmaea</i> Rambur
34	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i> Oguma	87	ショウジョウトンボ	<i>Crocethemis servilla maritanae</i>
35	オオギンヤンマ	<i>Anax guttatus</i> (Burmeister)	88	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i> (Fabricius)
36	ウチワヤンマ	<i>Sinictinogomphus clavatus</i>	89	ベニトンボ	<i>Trithemis aurora</i> (Burmeister)
37	タイワンウチワヤンマ	<i>Ictinogomphus pertinax</i> (Selys)	90	ハラビロトンボ	<i>Lyrithemis pachygastera</i> (Selys)
38	コオニヤンマ	<i>Sieboldius albardae</i> Selys	91	シオカラトンボ	<i>Orithetrum albistylum speciosum</i>
39	オナガサナエ	<i>Meligomphus viridicostus</i>	92	シオヤトンボ	<i>Orithetrum japonicum</i> (Uhler)
40	アオサナエ	<i>Nihonogomphus viridis</i> Oguma	93	オオシオカラトンボ	<i>Orithetrum triangulare melania</i>
41	クロサナエ	<i>Davidius fujitama</i> Fraser	94	ヨツボシトンボ	<i>Libellula quadrimaculata</i> Linnaeus
42	ダビドサナエ	<i>Davidius nanus</i> (Selys)			
43	ヒメクロサナエ	<i>Lanthus fujitama</i> (Fraser)			
44	ヒメサナエ	<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>			
45	オジロサナエ	<i>Sylogomphus suzuki</i> (Oguma)			
46	タバサナエ	<i>Trigomphus citinus tabei</i> Asahina			
47	オグマサナエ	<i>Trigomphus ogumai</i> Asahina			
48	コサナエ	<i>Trigomphus melampus</i> (Selys)			
49	フタスジサナエ	<i>Trigomphus interruptus</i> (Selys)			
50	ミヤマサナエ	<i>Antisogomphus maacki</i> (Selys)			
51	ホンサナエ	<i>Shiogomphus postocularis</i> (Selys)			
52	キイロサナエ	<i>Asiagomphus pryeri</i> (Selys)			
53	ヤマサナエ	<i>Asiagomphus melanops</i> (Selys)			

①貝類

南方熊楠記念館では 2018 年に「南方熊楠の貝類コレクション展Ⅰ」を開催したが、未整理の貝類や資料がたくさん残されていた。そこで、西宮市貝類館より学芸員高田良二氏に来ていただき、未調査の貝類標本について調査してもらい、標本リストが完成した。その結果は、2018 年 10 月 18 日（木）から 11 月 20 日（火）まで西宮市貝類館で開催された「南方熊楠貝類コレクション展—南海の偉人熊楠と貝との出逢い—」で展示された。その後、2019 年 6 月 22 日（土）から 9 月 16 日（祝）まで南方熊楠記念館の特別展「南方熊楠の貝類コレクション展Ⅱ」でも展示した。その標本の写真撮影を行い、一般の人にもわかりやすい冊子を作成した。

フィールドミュージアム 南方熊楠記念館 2019 特別展

南方熊楠の 貝類コレクション展Ⅱ

南方熊楠記念館には 2000 点以上の貝類標本が保管されています。
その中には、海外の標本や長女文枝さんが採集したものも含まれています。前回展示したものに加えて、未公開の貝類コレクションや、貝類を保管していた木箱、熊楠が「動物綱目」で貝類について書いた部分も展示します。また、白浜番所崎周辺でみられる貝殻を観察するコーナーを設けます。夏休みの自由研究の参考にいかがですか。入館料のみで御覧いただけます。

6/22(土)~9/16(祝) 本館2階展示室

特別イベント 8/1(木) 10:00~13:30
「白浜番所崎で貝殻を探そう」
講演 貝類と海の生物達のおはなし
講師...西宮市貝類館 学芸員...高田良二氏
記念館の近くの海岸で貝殻を探し、熊楠の標本を参考にして名前をつけてみましょう。小学生は保護者同伴をお願いします。
雨天時はギャラリートークです。 料金：本館1階多目的室
準備物：蓆、飲み物、帽子、タオル、日焼け止め、筆記用具
申し込み：南方熊楠記念館へ電話で申し込んでください。
30名募集（定員に達し次第ホームページでお知らせします）

公益財団法人 南方熊楠記念館
番所山を愛する会
TEL 0739-42-2672 〒640-2211
和歌山県西牟婁郡白浜町 3601-1 (番所山)
本事業はタカラ・ハーモニストファンドの活動助成を受けて実施しています。また、吉野藩野国立公園パートナーシップイベントです。

南方熊楠記念館

南方熊楠記念館 2019 年特別展「熊楠の貝類コレクション展Ⅱ」のチラシ

「南方熊楠の貝類コレクション展Ⅱ」のようす



貝類展Ⅱ入口



番所崎の貝類採集ポイント紹介



石炭箱と三ツ矢サイダー箱



上:三ツ矢サイダー箱 下:石炭箱



② 鉱物・化石

南方熊楠記念館にある標本目録では、鉱物・化石標本は、319点記録されている。しかし、詳細な同定とリストは未完成であった。そこで、岩石・鉱物は益富地学会館主任研究員の石橋隆氏、化石については和歌山自然博物館の小原正顕氏に調査してもらい、他の専門家にも意見を伺った。不明の鉱物については、益富地学会館でX線を使った機器を用いて同定も行った。その結果を基に、南方熊楠記念館で写影を行い、冊子原稿を作成した。



和名：紫水晶
英名：アメシスト
熊楠コレクションの中に「水晶」の標本は10点あります。

熊楠の 鉱物・化石 コレクション展

南方熊楠の筆箱に収められていた
鉱物・化石のコレクションは
306点
それらを初公開

開催期間
令和2年
12月6日(金)～2月9日(日)
南方熊楠記念館 本館2階展示室
※特別展は入館料がかかります。



青年熊楠が東京予備門時代に神田で購入した「玉(ぎょく)」。
英名：ジャスパー



巻根志に「月のお下がり」という名で載っている「ピカリア」の化石。オパール化しています。
熊楠が割って中を覗いた穴

関連講演会

開催日 令和2年1月13日(月・祝)
時間 13:30～15:00
内容 「本草学」の鉱物・化石とギャラリートーク



講師 石橋 隆 氏
公益財団法人益富地学会館研究員

協力：公益財団法人益富地学会館、大阪大学総合学術博物館、平成31年度タカラ・ハーモニストファンドの協賛をうけています



公益財団法人
南方熊楠記念館

開館時間▶ 9:00～17:00(入場は16:30迄)
入館料▶ 大人800円、小人300円 ※大人：高校生以上、小人：小・中学生、幼児無料
〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 3601-1 (臨海バス停徒歩8分) ※本館休館
TEL0739-42-2872 <http://www.minamikumano-memorial-museum.jp/>






南方熊楠記念館 2019 特別展南方熊楠の鉱物・化石コレクション展」のチラシ

「熊楠の鉱物・化石コレクション展」のようす



熊楠の親友達との交流を示す展示



新しい標本箱に収められた鉱物



ガラスケースでの展示



化石「月のさがり」



紙の標本箱と自筆ラベル



海外で購入した可能性がある銀星石の標本



紙の標本箱蓋裏に書かれた英字や縦書きのラベル

B 観察会の実施

① 昆虫観察会

南方熊楠記念館の特別展「和歌山のトンボ」に合わせて2019年6月9日（日）に昆虫の観察会を実施した。講師は、熊野自然保護連絡協議会会長南敏行氏で、環境省吉野熊野国立公園管理事務所田辺管理官事務所の国立公園管理官やアクティブレンジャー、環境省自然公園指導員、白浜町教育委員会中央公民館の協力をいただいた。参加者は30名、アンケートでは、大変良かったが22名良かったが8名だった。

感想・嫌いだった虫が好きになった

- ・サツマゴキブリが綺麗だった
- ・昆虫の名前を教えてもらえてよかった
- ・大変面白かった
- ・1時間でこんなに虫がとれるとは思っていなかった
- ・子供もすごく勉強になったと思う
- ・夏休みに昆虫採集したい
- ・また参加したい

など

② 貝類観察会

南方熊楠記念館の特別展「南方熊楠の貝類コレクション展Ⅱ」の会期中にあわせて2019年8月1日（木）に貝類の観察会を実施した。講師は、西宮市貝類館学芸員高田良二氏で、環境省吉野熊野国立公園自然保護官事務所の協力もいただいた。参加者は19名で、大変良かったが17名、良かったが2名だった。

感想・貝を拾うのが楽しかった

- ・貝の名前がわかって良かった
- ・ナメクジが貝の進化型だと知ってびっくり
- ・はじめて番所山の磯をまわられてよかった
- ・孫と参加しましたが幼稚園児でもわかりやすくてよかった
- ・高田先生お目にかかれてよかった
- ・また参加したい
- ・とても充実していた

など

③ 鉱物・化石コレクション展講演会とギャラリートーク

南方熊楠記念館の特別展の会期中にあわせて2020年1月13日（祝）に実施した。参加者は25名、シニアから若者まで、大人が多く、大坂や神戸、京都などからの参加もあった。

感想・本草書を始めて見て興味を持った

- ・熊楠の幅広さを感じた
- ・宝石が綺麗だった
- ・ギャラリートークが楽しかった
- ・またやって欲しい
- ・鉱物ファンが楽しめる展示でした
- ・完成した冊子をぜひ送ってほしい
- ・標本箱に標本の名前をわかりやすく書いて欲しい
- ・熊楠がお金にいとめをつけずに集めたようすがわかって熊楠の情熱を感じた
- ・円月島の夕日がちょうど見られそうでうれしい

など

昆虫観察会



昆虫採集についてのお話



たたき網の紹介



手作りの捕虫網の紹介



虫のつかみ方を教えてもらう



駐車場広場での採集



昆虫の名前を教えてもらう



人工池周辺でトンボ採集



観察会のまとめ

貝類観察会



講演会



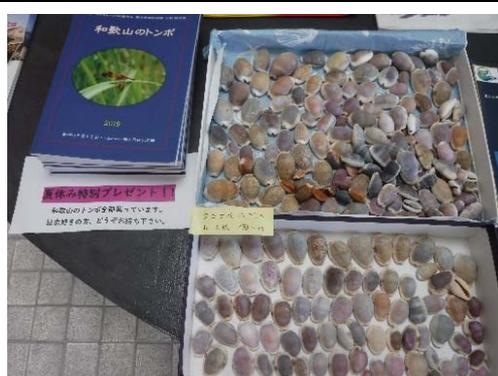
小中学生もいます



天然橋から円月島裏まで一周しました



北浜で拾った貝類

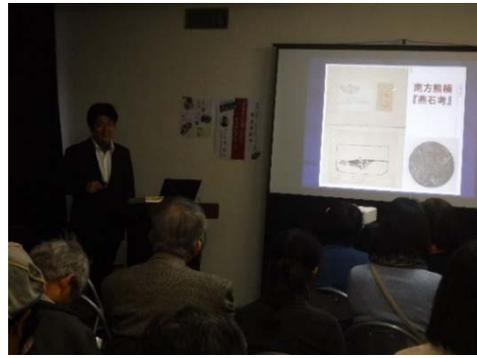


プレゼント用のタカラ貝類



持ち帰った貝の名前を教えてくださいました

鉱物の講演会・ギャラリートーク



C 冊子の印刷・配布

① トンボの冊子

トンボ一種類について一ページとして、和歌山県内で見られるすべてのトンボの生態カラー写真を掲載した。撮影、本文は南敏行氏によった。また、南方熊楠の文章のなかで、トンボに関連したものを探し、掲載した。野外で持ち運ぶのに便利なように、A5版無線綴じで作成した。両面4色コート90紙、表紙ツヤ加工、全106頁で500部作製した。南氏に100部宅急便で送り、トンボに関する観察会で活用してもらった。この冊子は大変好評で、郵送での希望も多く、令和2年6月現在、わずかしかなかった。

② 貝類の冊子

熊楠の貝類コレクションで、現在種名が判っているものをすべてに和名をつけてカラーで撮影した。大きさの見当がつくようにモノサシも入れた。紀伊半島南部で採集できる貝がほとんどであったが、熊楠が海外で購入したり、採集したりした標本も含まれているので、それを一箱にまとめて撮影した。標本箱に種名を添付して、写真撮影したので、写真の細かい字が読めるようにトンボの冊子より版を大きくしてB5版にした。無線綴じ、両面4色コート90紙、表紙ツヤ加工、全40頁で600部作製した。西宮市貝類館に100部送り、活用してもらうことにした。観察会に参加したり、特別展を見たりして、冊子の郵送を予約して希望する人も20名ほどいた。令和2年6月から9月に開催している特別展「熊楠のお宝展 part I 箆笥の中の鉱物・化石・貝類等」で和名を添付した貝類標本を展示するので、希望者に配布する予定である。

③ 鉱物・化石の冊子

熊楠の鉱物・化石コレクションは今まで一度も公開されたことが無かったので、すべて撮影して冊子を作った。熊楠の書いた縦書きのメモと、横書きの英字メモの両方を掲載し、現時点で名前や日記のデータなど、わかったことを記載した。鉱物に関しては益富地学会館の石橋隆氏、化石に関しては和歌山県立自然博物館の小原正顕氏に見てもらい、名前を書き入れた。現時点で不明の標本も含まれているが、熊楠の箆笥の引き出しを復元して撮影し、熊楠自身のつけたデータと、現時点でわかっていることをまとめて掲載している。B5版無線綴じ、両面4色コート90紙、表紙ツヤ加工、全40頁で700部作製した。和歌山県立自然博物館と益富地学会館に100部ずつ送り、活用してもらった。特別展の期間中、冊子を予約したり、電話での問い合わせがあったりした。令和2年6月から9月に開催している特別展「熊楠のお宝展 part I 箆笥のなかの鉱物・化石・貝類等」で鉱物や化石の標本を展示するので、希望者に配布する予定である。

「和歌山のトンボ」 冊子表紙



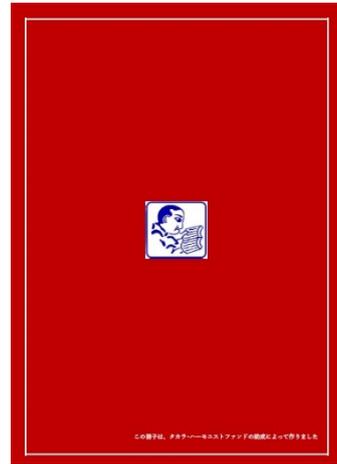
「和歌山のトンボ」 冊子裏表紙



「貝類コレクション展」 冊子表紙



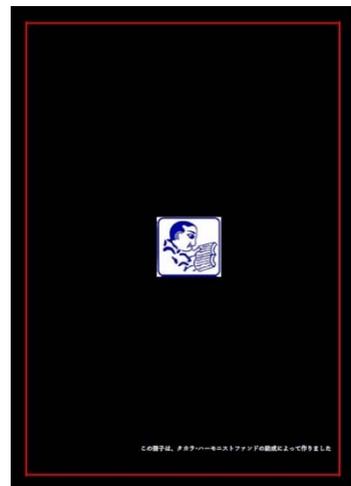
「貝類コレクション展冊子」 裏表紙



「鉱物・化石コレクション展」 冊子の表紙



「鉱物・化石コレクション展」 冊子の裏表紙



今回の活動で新たに分かったこと

① 昆虫

- ・南方熊楠の昆虫標本は、茶色い箆笥の引き出しに収められていた。87 匹の標本が針に留められて残っている。中には熊楠自筆のラベルが付けられているものもある。ほとんどは熊楠が若い頃、日本で採集したものだと考えられるが、海外のキーウエストで採集した糞虫や、昭和 5 年のアケビコノハの標本もたばこの空き箱に書かれたメモとともに残っていて、晩年まで昆虫採集をしたことがわかった。
- ・番所山はウバメガシ林やタブノキ林、熱帯植物園、芝生草地など多様な環境があり、遊歩道が整備されているので、昆虫採集に適した場所である。南方熊楠記念館の多目的室を使えば、昆虫教室を開くことができ、生物に興味を持つ子供達に、安全に自然と触れ合う体験を提供することができることや、そのニーズが多いことが確かめられた。

② 貝類

熊楠の貝類標本は、黒い箆笥と茶色い箆笥、蓋のない木箱 3 つに収められていた。石炭箱と三ツ矢サイダーの箱に詰められていた標本は、1900 年代に撮影された写真では北島脩一郎の税金の領収書に包まれており、北島及びその勤務先であった和歌山県立田辺高等女学校の生徒などによる採集標本も混じっている可能性が高くなった。

熊楠自身の採集によると考えられる標本は、箆笥の引き出しや蓋のない木箱の写真を見て復元できる可能性がある。しかし、今回はまず資料整理することが目的なので、あえて復元することはしなかった。よって、今回印刷した貝類コレクションの写真には、北島の標本や提供されたと考えられるアラフラ海の貝殻なども混じっている。

今回、高田良二氏によって熊楠の貝類コレクションのうち 1778 個体 299 片、合計 2077 点についてリストが作られた。この中には、398 種内 18 亜種含まれていることが明らかになった。以下、西宮市貝類館第 20 回特別展南方熊楠貝類コレクション展のパンフレットから抜粋する。

海産貝類は 364 種あり、和歌山県産と推測されるタカラガイ科、アッキガイ科、イモガイ科、タケノコガイ科、マルスダレガイ科、ニッコウガイ科などの比較的採集の容易な大型～中型種が多く見られた。なかにはヨウラクガイやセンジュガイモドキなど、エビ網漁などで掛かってくるような深場に棲息するような巻貝などもふくまれている。

マルスダレ科やニッコウガイ科の二枚貝の多くは、当時、白砂青松であった田辺市扇ヶ浜を中心とした田辺湾で採集された標本と想像できる。

陸産貝類は 20 種類と少ないが、ナチマイマイやミツクリギセルなど、今も和歌山県産の標本が含まれている。淡水産貝類は 14 種で、マルタニシやマシジミなどが見られる。

また、外国産の貝類は、主にダイバーから譲り受けたとされる、アラフラ海のシロチヨウガイやオーストラリア産のベッコウダカラなどがあり、また真珠の核として使用されていたアメリカ、ミシシッピー川のマツカサカワボタンガイや、フロリダに生息するオオタワラガイ類などが含まれている。

これら、貝類コレクションの総数は、当時の個人の収集品としては種類や数量が多いことから、熊楠は長年にわたって貝類を集めていたことが判る。

③ 鉱物・化石

熊楠の鉱物・化石コレクションのほとんどは、東大予備門時代と渡米前の和歌山にいた頃に、親友たちと購入して集めたものである。縦書きのラベルに鉱物名や採集地、購入地などもメモを書いて入れ、白い紙箱の蓋の裏にきちんとした英字の筆記体で、鉱物名や産地を書いている。熊楠自身の手紙や、ノート片、地図帖の断片など熊楠の行動を示唆する新出資料がたくさん見つかった。海外で熊楠自身が採集した化石や、海外でもらった植物化石などの新出資料も見つかった。今後、X線による成分分析などの手法を用いることにより、より正確な同定がなされる予定だが、今回の冊子作製がきっかけとなって、熊楠の鉱物・化石コレクションの全貌が明らかになりつつある。

以下に、熊楠の鉱物・化石コレクションについて、判ったことを今回の冊子原稿から抜粋して示す。

熊楠の鉱物・化石コレクションは、明治初期の近代日本における鉱物学、古生物学、地質学の黎明期において、博物学の基礎を本草書より学び、西洋の学問をいち早く取り入れつつ標本採集を行った熊楠ならではの他に類をみない標本群であるといえる。

将来的な活動計画の展望

「番所山を愛する会」では、今後も番所山の森の手入れや海岸清掃活動を継続していく。公益財団法人南方熊楠記念館の開催する自然観察会や、南紀熊野ジオガイドの会や本会が開催する自然観察会などで、今回作成した「南方熊楠の貝類コレクション」、「南方熊楠の鉱物・化石コレクション」、「和歌山県のトンボ」のガイドブックを活用して自然観察の指導を続け、番所山の自然の魅力を幅広い世代の人々に伝えて楽しんでもらいたい。それによって、南方熊楠の自然保護思想を後世に伝えていきたいと考えている。

謝辞

今回の展示会、自然観察会、講演会、冊子の作成には下記の方々の協力を得た。ここに記して感謝する。(順不同)

環境省吉野熊野国立公園管理事務所田辺保護管事務所

白浜町教育委員会中央公民館

南方熊楠顕彰館

公益財団法人益富地学会館研究員 石橋隆氏 (岩石・鉱物の調査)

和歌山県立自然博物館学芸員 小原正顕氏 (化石の調査)

西宮市貝類館学芸員 高田良二氏 (貝類の同定)

滋賀県立琵琶湖博物館館長 高橋啓一氏 (ウマの化石の同定)

環境省自然公園指導員 浜際康太氏 (昆虫観察会)

北九州市立自然史・歴史博物館学芸員 御前明洋氏 (化石の同定)

熊野自然保護連絡協議会会長 南敏行氏 (トンボの資料提供)